

# 始良・伊佐地域青少年育成だより

発行

始良・伊佐地域青少年育成推進協議会  
第46号 令和3年11月

〒899-5212 始良市加治木町諏訪町1-2

始良・伊佐地域振興局総務企画課地域振興係

TEL 0995-63-8109 FAX 0995-63-8108

HP 鹿児島県始良・伊佐地域振興局 健康・福祉→検索

## 「家庭の日」絵画・ポスター標語コンクールに16名入賞 絵画の部で田上晋作（菱刈小）さんと小野綾子（平出水小）さんが最優秀賞

絵画の部で田上晋作さん（伊佐市立菱刈小4年）と小野綾子さん（伊佐市立平出水小6年）が最優秀賞を受賞し、ポスターの部で、神園すみれさん（始良市立柁城小5年）と宮崎由衣さん（霧島市立富隈小6年）と今吉結意さん（霧島市立溝辺中2年）が優秀賞を受賞されました。その他に絵画の部で優良賞2名、努力賞3名、ポスターの部で優良賞1名、努力賞1名、また、標語



の部で椎原颯也さん（霧島市立平山小1年）優秀賞を受賞し、優良賞2名、努力賞1名が入賞、合計で16名の皆さんが入賞されました。入賞者の皆様・指導者の先生方・家族の方々の関係者の皆様本当におめでとうございました。いずれも素晴らしい作品でした。

県内の入賞作品は、県青少年育成県民会議ホームページでも閲覧することができます。

部門	賞	学年・種別	氏名	学校名	学年
絵画	最優秀賞	小学校中学年	田上 晋作	伊佐市立菱刈小学校	4
		小学校高学年	小野 綾子	伊佐市立平出水小学校	6
	優良賞	小学校低学年	竹下 笑真	霧島市立国分小学校	1
		小学校高学年	大古殿 慎	〃	5
	努力賞	小学校低学年	山口 慶祐	〃	1
		小学校高学年	脇川 健介	始良市立重富小学校	5
〃		仁王 愛心	伊佐市立大口小学校	5	
ポスター	優秀賞	小学校高学年	神園 すみれ	始良市立柁城小学校	5
		〃	宮崎 由衣	霧島市立富隈小学校	6
		中学校	今吉 結意	霧島市立溝辺中学校	2
	優良賞	小学校高学年	田原 瑚子	始良市立松原なぎさ小学校	5
	努力賞	小学校高学年	天目石 結	霧島市立富隈小学校	6
標語	優秀賞	小学校低学年	椎原 颯也	霧島市立平山小学校	1
	優良賞	小学校中学年	宝山 星愛	始良市立山田小学校	3
		小学校高学年	竹之内 莉乃	霧島市立小野小学校	6
	努力賞	小学校中学年	東 花響	霧島市立宮内小学校	3

### ご案内



○県内や始良・伊佐地域内の受賞者の優秀作品が、下記のとおり展示されます。ぜひ会場に足を運んで、児童・生徒の素晴らしい作品をご覧ください

会場 … 鹿児島県青少年会館 ★ただし優良賞以上

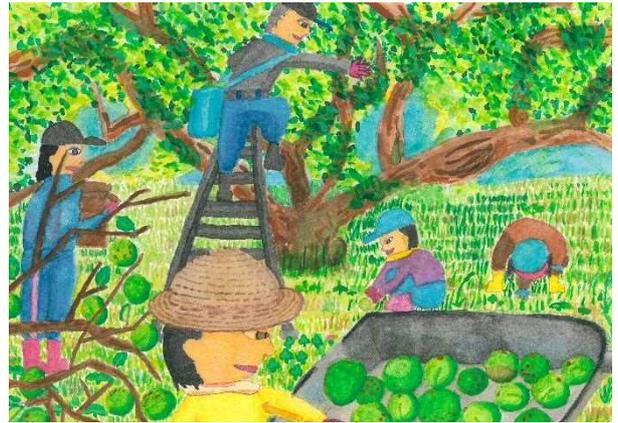
期間 … 令和4年3月18日（金）～6月5日（日）

◎ 11月2日（火）から鹿児島県青少年育成県民会議のホームページでも公開しています。

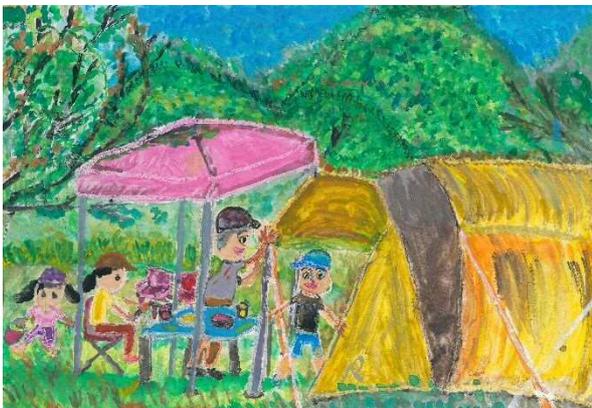
## 作品介绍 絵画の部



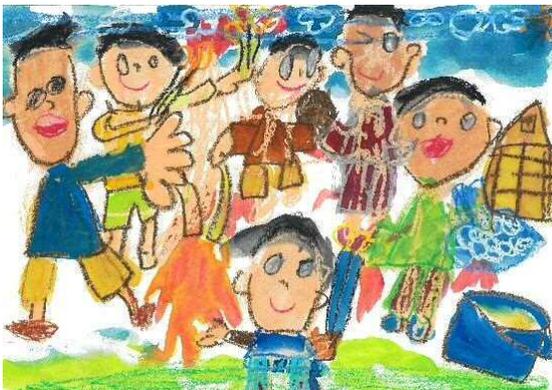
「家族でバーベキュー」  
伊佐市立菱刈小4年 田上 晋作



「今年はたくさんとれたね」  
伊佐市立平出水小6年 小野 繪子



「みんなで協力ファミリーキャンプ」  
霧島市立国分小5年 大古殿 慎



「花火で、みんなにここに」  
霧島市立国分小1年 山口 慶祐



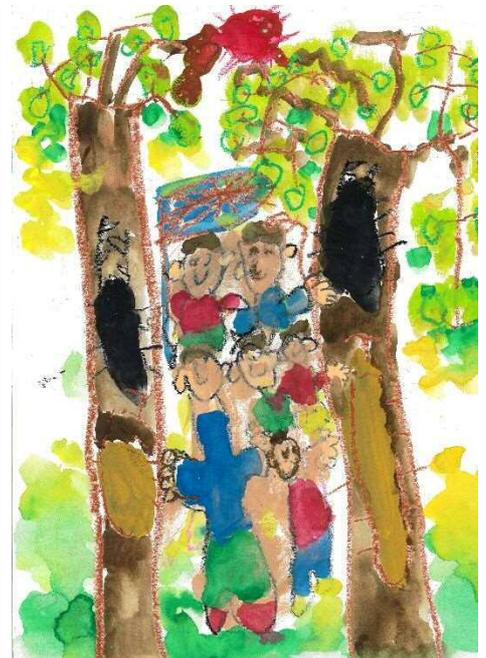
「料理のお手伝い」  
伊佐市立大口小5年 仁王 愛心

### 【審査員講評】

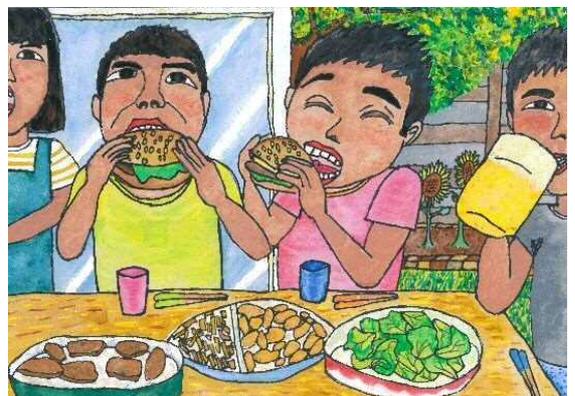
家族でバーベキューをしている楽しそうな様子が作品から伝わってきます。

筆のタッチや色の重ね塗りがとても効果的で、家族の温かい雰囲気がよく表現されています。

また、一人一人の表情も生き生きと描かれていて、「おいしいね。楽しいね。」という声まで聞こえてきそうです。



「虫とりにいったよ」  
霧島市立国分小1年 竹下 笑真



「家族で手作りバーガーパーティー」  
始良市立重富小5年 脇川 健介

## ポスターの部



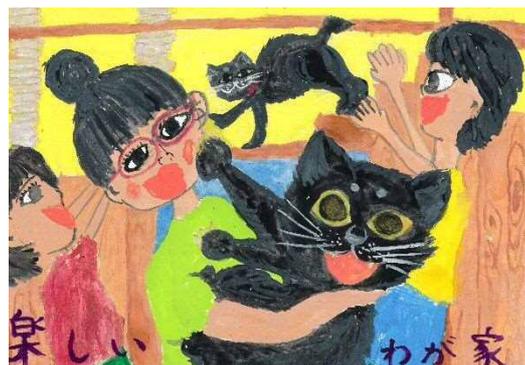
「みんなで食べよう」  
霧島市立富隈小6年 宮崎 由衣



「みんなで一つの輪」  
始良市立柁城小5年 神園 すみれ

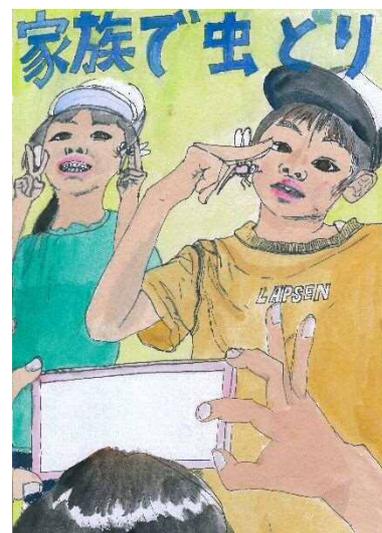


「かていのひ」  
霧島市立溝辺中2年 今吉 結意



「楽しいわが家」  
始良市立松原なぎさ小5年 田原 瑚子

県民会議の  
ホームページ  
はカラーです  
からぜひ見て  
ね！



「家族で虫とり」  
霧島市立富隈小6年 天目石 結

## 標語の部

優秀賞	おつかれさん ぼくがママを ママがばあばの かたたたき	霧島市立平山小学校1年	椎原 颯也
優良賞	ママからの 「ありがとう」は まほうの言葉	始良市立山田小学校3年	宝山 星愛
	外までも 聞こえる 我が家の 笑い声	霧島市立小野小学校6年	竹之内 莉乃
努力賞	つかれた体 お家に帰って じゅう電中	霧島市立宮内小学校3年	東 花響

# 「県少年の主張大会」 宮脇 大果さん（霧島市立横川中2年） 最優秀賞!! 応募総数3,275点の中から

「第43回（令和3年度）少年の主張鹿児島県大会」が8月8日（日）に鹿児島県青少年会館で開催されました。45中学校から3,275名の応募者の中から10名が選考され、本大会に臨みました。今年は本地区から1名の本大会へ参加がありました。熱弁の結果、霧島市立横川中学校2年の宮脇 大果さんが最優秀賞を受賞しました。昨年に続き、横川中学校からの参加で、2年連続「最優秀賞」を受賞しました。

以下、宮脇 大果さんの主張内容を紹介します。



## 「今を生きる」

### 霧島市立横川中学校2年 宮脇 大果



生きることってすばらしい。清々しい空気を胸いっぱい吸いこむこと。母の手料理をお腹いっぱい食べる。友達と楽しくおしゃべりすること。

私は、身長143cm。決して大きくはない。生まれたときも2200gの小さな体だった。それでも、元気な産声を上げ生まれてきた。だが、生後一週間、母は、おむつを替えるときに違和感を覚えたという。白い便に目を疑った。病院を転々とし、ようやく病名が分かった。先天性胆道閉鎖症。

一万人に一人という難病だった。胆管が詰まり、腸に胆汁が流れず、命の危険を伴う病気。大学病院に運ばれた私は、生後56日目にして12時間に及ぶ大手術を受けることになった。きつとうまくいくと信じた父と母の思いもむなしく、主治医に呼ばれ、こう告げられた。「術後の経過がよくありません。命の危険もありますので、覚悟をしておいてください。」それは、スローモーションの世界で、医師の声が遙か遠くで囁かれるように聞こえたという。我に返った母は、病室で泣き崩れた。その肩を父が優しく抱きよせた。現実から逃げてしまいたい不安と絶望。小さな体に繋がれた何十本もの管。だが、その時だ。もちろん私は覚えていないが。その小さな手で、母の手を握り返したらしい。ぎゅっと、力強く。母の手を。「お母さん、私、生きてるよ」

あれから14年。これまで幾度となく手術を受けてきた。正直、手術は怖い。だが、心配をかけたくない私は、いつもこう答える。「麻酔の味はレモン味。おいしそうでしょ。」強がる私に気づかない母ではない。

「今日という日は、必ず終わるから。明日はきっと来るんだよ。」

目が覚めると、身動きすらできない私の手を母の温かい手がいつも包んでいた。

だが、一度だけ私は母に苛立ちをぶつけたことがあった。「胆道閉鎖症を守る会」に参加した帰りのこと。肝臓移植を受けた同年代の男の子、我が子を亡くしたおばあさんの話。すべての言葉が心にむなしく渦巻いていた。私は思い出していた。病気のせいで、私だけ鉄棒で遊べなかったこと。病気のせいにして、体育の時間のサッカーを休み、苦手なことから逃げだした。私はつぶやいた。

「どうして私だけ……こんな体に生んだの。」あの時の母の顔を私は一生忘れない。

「大果、ごめんね。でもね、病気から逃げるなんてできないの。病気とけんかしても何にも変わらないの。だったら、病気と一緒に仲良く手をつないで生きていこう。」

私の心にそっと温かい風が吹いた。翌日、私は、グラウンドに立った。苦手なサッカーと向き合おうと思った。ボールが怖かった。友達が思いきりぶつかってきたらと不安だった。だが、私の周りには、病気の私を温かく受け入れてくれる友人や家族、そして、病気と共に生きていくことを教えてくれた母がいる。母は、私の一番の理解者であり、目指す人だ。

プロサッカー選手の本田圭佑さんは、「現実を認めなければ、今を生きることはできない。」と語る。今、世の中は、コロナ禍に見舞われ、多くのことが制限される時代だ。だが、withコロナという新しい枠組みの中で、新しい生活様式を受け入れたとき、私たちは、自分らしく生きる道を見つけられるのではないかと。あの日、大手術を終え、私のおむつを替えた母は、おむつに頬を擦り寄せ、涙を流したという。

「大果のうんちがね、宝石みたいにきれいだったんだから。」母は、今でも嬉しそうにこの話をする。私は、思う。ありのままの自分をすべて受け入れ、今を生きること。それはきっと明日につながり、朝陽を浴びてきらきらと道が輝き出すのではないかと。だから、私は今日も、笑顔と元気いっばいの声で、生きていく。

「お母さん、私を生んでくれてありがとう。」



## コンビニ・カラオケ等に立入調査

鹿児島県青少年保護育成条例に基づき、各地域振興局で例年8月にコンビニ、スーパー、カラオケ店、リサイクルショップ、金物店、屋外雑誌販売機等を中心に立入調査を実施しています。コロナ禍により8月を延期し、11月に実施しました。

実施対象商品として、成人雑誌、包丁、刃物類、青少年の入店時間・出店時間等についての確認やステッカーの表示状況等の確認に立入調査を実施しました。大旨、ご理解ご協力の基、適切に処置されていきました。

しかし、一部の店舗に次のお願いをしました。例えば、雑誌類は青少年が気軽に立ち読みできないように紐等で結んでほしい、購入の際には年齢等の確認をお願いしたところです。また、刃物類の販売には、売り場にステッカーの表示のお願いとレジ担当者への購入の際の注意点について協力依頼をしました。

青少年の犯罪未然防止の一環として行政と販売店との共通理解、共通実践を行う機会としたところです。ご協力・ご理解ありがとうございました。



## 令和3年度 ～全国地域安全運動～（始良・伊佐版） 犯罪のない安全で安心なまちづくり旬間

鹿児島県と鹿児島県警は「鹿児島県犯罪のない安全で安心なまちづくり県民会議」で10月11日～10月20日までを旬間として県内各地で防犯教室等を実施しました。コロナ禍の状況での活動となるので密にならないよう、感染対策を施して行われました。今回は「子ども・女性・高齢者の犯罪被害防止」「うそ電話詐欺（特殊詐欺）被害の防止」「防犯意識の醸成と環境づくりによる犯罪被害の防止」を中心に行われました。

子ども達には「いかのおすし」で被害防止を呼びかけています。自転車には確実に鍵（二重ロック）をかける運動や貴重品等の置き忘れをなくし、「万引きをさせない、しない」運動を推進しましょう。

うそ電話詐欺被害にあわないためには具体的な手口やその対応策を知り、家族や知人にも周知しましょう。



湯之尾小での様子

## 漆校区コミュニティ協議会 漆バラ踊り(ビナマキ)の継承



漆校区コミュニティ協議会は、漆小学校の秋季大運動会に恒例の「漆バラ踊り」を披露しました。この「バラ踊り」はバラと呼ばれる竹製品に和紙を張り、鐘の音に合わせて舞い踊るものであります。

今年はコロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、練習を積んで9月19日(日)の運動会で舞い踊りました。例年は8回ほどの夜間練習等を行っていますが、コロナ禍(まん延防止宣言)や台風等の影響で練習が積めず、保護者の発案で、YouTubeに配信して自宅で練習をしました。この動画は漆校区コミュニティ協議会の会長松永政裕さん、支援員外園正剛さん、漆小PTAが作成から配信に携わりました。

漆小学校榎元寛之校長先生も「初めて踊る者にとっては大変有り難い支援となりました。例年通りの練習ではなかったが、皆さんの熱い思いが一つになり伝統をつなぐことができました」と話されました。



## 地域人材を活用した取組 ～防犯教室「いかのおすし」～

湧水町立上場小学校では、10月14日に防犯教室「いかのおすし」を実施しました。その際には、伊佐湧水警察署(3名)、町役場職員(2名)が本校1、2年生(5名)の児童向けに指導してくださいました。

学校周辺は人通りが多くないので「不審者対応」は必要が無いかと思われますが、校長先生から「学校周辺から少し離れると人家も少なく、栗野、牧園、横川方面に抜ける道があるので非常に危険である。だからこの活動は複数回行ってもいいです」と話されました。防犯教室は5月にも学校行事として実施しました。

この5月の実施の際には「子ども110番の家」の内村さんにも出席していただきました。子ども達は内村さんと実際に会話することで、顔見知りになり防犯対策につながると喜んでいきます。(校長談)



## 針持校区コミュニティ協議会 ～そばの花観察とその後～

針持校区では、コミュニティ協議会で「そば作り」を通して、地域活性化を願いとし校区内の児童生徒には、そばの花の観察やそばの脱穀等の体験を計画しています。

耕作地は針持校区コミュニティ協議会の丸目会長の私有地80アールを提供していただき、8月30日に協議会のメンバーで種まきをしました。面積が広いので子ども達には、そばの花の観察をしていただき、はじめて観る児童も学校の授業用タブレットで写真撮影を行った。

今後は、収穫体験は機械化で難しいので、脱穀後の選別に「唐箕（とうみ）」を使って選別体験を計画しています。コロナウイルス感染が落ち着いていけば、そば打ち体験も視野に入れていきます。針持コミュニティ協議会会長の丸目廣美さんの想いは「伊佐市全体に地域活性化が広がれば」との思いであります。



## 姫城しゅじゅどん地域塾 ～かかしの手作り体験～

姫城しゅじゅどん地域塾（会長：肥後義弘さん）では「農業体験を通じた異世代交流と食文化伝承」をテーマに、姫城校区の親子だけではなく、校区外の親子でも「来る人拒まず」で受け入れて実施しています。

米、じゃがいも、さつまいも、そば等の農作物を植え付けから収穫までの体験活動です。「収穫祭」と銘打って女性連の指導を受けながら、調理体験も行っています。

今回はかかし作り体験について伺いました。日当山中学校美術部の生徒には、かかし作りだけでなく看板作りにも精出してもらい、中学生の活動参加を喜んでいます。地域塾に入塾している日当山小中学校の児童生徒は、個人でもグループ、家族等で「かかし作り」を体験しました。できた「かかし」は隼人姫城地区公民館前の市道に掲示し、田植えをした田んぼに9月中旬に移動して鳥害駆除に役立てました。

